

# 多様化する社会における 「フリーランス」という働き方

星野雄太郎

本研究では、近年増加傾向にある「フリーランス」という働き方に着目する。筆者はその増加の背景を、会社という組織で働くことで生じる様々な課題が関係しているのではないかという仮説を立てた。フリーランスという働き方には「時間を気にせず働ける自由さ」といったイメージがあり、例えば日本の社会問題である長時間の残業も、フリーランスであれば個人で仕事を請け負うため、残業自体が存在しない。本研究ではフリーランスの働き方に注目することで、そこから見える組織の一員としての働き方の課題、そして実際のフリーランスの働き方を明らかにすることを目的に、満足度という視点からフリーランスのあり方について深く掘り下げていった。本研究の調査ではフリーランスを目指している人1人、そしてフリーランスとして独立して活動をしている7人の計8人にインタビューを実施した。インタビュー調査は大きく2つに分けて、前半ではフリーランスを目指した経緯、後半では会社員時代との満足度比較調査を実施した。

前半のフリーランスを目指した経緯に関するインタビュー調査では、5つの動機とそれに関連した社会問題が見えた。まず8人に共通する動機として「時間的魅力」と「場所的魅力」が挙げられる。これはフリーランスの代名詞とも言える「自由」を求めるという点で非常に人気であり、その社会背景には毎日の通勤時間の長さ、残業の多さといった時間的不満や、転勤などによる場所的不満などの要因が出た。インタビューでは「時間的魅力」「場所的魅力」という基盤の上に別の動機が絡むケースが多く見られた。その他の動機には、育児と仕事の両立が難しいという理由から隙間時間を生かした働き方をしたいという動機、自分の裁量で働きたいという動機、人間関係のストレスから個人で活動のできるフリーランスを目指すといった様々な動機が出た。

前半のインタビューでは、会社員としての働き方の課題から、理想の働き方への改善を目指す中で、フリーランスという選択をした者が多く出る結果となった。後半の会社員時代とフリーランスの満足度比較調査では、インタビュー対象者の独立後に注目した。

この調査では仕事の満足度を「仕事内容」「達成感・充実感」「時間の使い方」「人間関係」「金銭面」の5つに分け、フリーランスのメリットだけでなく、そのデメリットについても明らかにした。この5項目において、フリーランスの満足度が最も高く、多数の対象者がメリットとしてあげたものが、仕事内容についての評価であった。会社員では、自分のやりたくない仕事が無駄にやることもある中で、フリーランスには「自分の好きな仕事を選べる点」があり、選択の自由が仕事内容の満足度に繋がっていることが明らかとなった。反対にデメリットとして多く出たものは「金銭面」についての評価であった。フリーランスは月によって収入にばらつきが出るケースが多く、今月の収入が来月も継続するか分からないという不安から、金銭面については低い評価が見られた。しかし今回の5項目では、結果としてフリーランスの満足度が会社員時代の満足度を全て上回る結果となり、全体を見れば金

銭面などのデメリットはありつつも、フリーランスという働き方の満足度の高さが明らかとなった。